

日本福祉大学社会福祉学部

『日本福祉大学社会福祉論集』第 123 号 2010 年 9 月

調査報告

福祉系高校生及び大学生のキャリア形成

岡 多枝子
三 並 めぐる

研究の課題と目的

本研究の目的は、福祉系高校⁽¹⁾に在籍する生徒が福祉系大学への進路選択を行う経緯と大学入学後の満足度および経験的学びの意味の検討を通して、社会福祉教育における福祉系高校生及び大学生のキャリア形成に関する新たな知見を得ることである。

社会福祉専門職の質的及び量的担保は福祉社会の前提であり、急速に進展する日本の高齢社会を支える礎でもある。しかし、福祉現場の不十分な労働環境やネガティブイメージによる福祉離れ、福祉系大学入学者の減少や卒業後の他分野就職者の増加など、日本の社会福祉専門職養成は深刻な課題に直面している。このような社会福祉専門職の質的及び量的不足は、高齢者や障害者など福祉サービス利用者の生命と生活の質（QOL）を低下させるだけではない。それは、リーマンショックに端を発した世界同時経済危機の中で雇用を失った人々やホームレス、ネットカフェ難民、不法滞在外国人、児童虐待や犯罪被害者へのケアなど今日的かつ複合的な社会福祉ニーズに対応する社会福祉サービスの質的及び量的欠乏につながることを意味する。こうした中で、福祉の道を志し福祉の資格取得に努力する福祉系高校生（厚生労働省社会保障審議会 2006）に関する論議は注目に値する。同審議会報告によると、福祉系高校卒業後の進路（就職・進学）は福祉分野が 67.3%（2006 年 3 月卒業生）、福祉分野の離職率 13.5%（2003 年 4 月就職者の 2006 年 9 月時点における値）は、高卒者全体の離職率 49.8%（2003 年 4 月就職者の 2006 年 3 月時点における値）に比較して低いことが特長とされる（文部科学省 2006）。

先行研究によると、専門高校卒業生の職業生活の安定性（本田）や、学校から職業への接続の重要性（乾ら）が示されている。また、高校時代の福祉教育が卒業後の職業や人生に及ぼす影響（田村ら 2008）や、福祉系高校生の社会福祉現場実習が高齢者イメージに及ぼす肯定的変化（萩原ら 2008）も報告されている。しかし、前述の社会保障審議会では福祉系高校卒業生の社会経験不足を懸念する意見も出され、これに対して、福祉系高校を含む介護福祉士養成ルートによる介護福祉士の専門性に有意差はないとする研究（保住）も報告されている。大橋（2005）は、福祉系高校生など職業高校に在籍する生徒と普通科高校生との発達の異同を比較検討する必要性を

指摘している。文部省（昭和62年当時）の産業教育に関する調査研究福祉部会報告（矢幅2000）によると、福祉系高校は2つのタイプとして構想されていた。

1つは、福祉の資格を取得して卒業後、福祉分野での就職をする進路選択である。2つ目は、福祉系大学等の上級教育機関への進学である。1つ目の福祉分野への就職に関する評価は、前述のように福祉系高校卒業生の福祉分野における離職率が他と比べて低い傾向にあることが報告されて、福祉系高校から職業への接続には一定の成果が示されている。しかし2つ目の福祉系高校と福祉系大学との接続に関して、進路選択や満足度および社会福祉教育の内容との関連性に着目してキャリア形成を中心に検討した研究は見当たらない。

以上のことから本研究では、福祉系高校を卒業して福祉系大学に入学した学生を対象とした調査を行うことにより、2つ目のタイプの評価を行うことを研究課題とする。その際に、高校時代の進路希望推移と高校卒業時の進路選択、大学入学前後の満足度等に着目して、福祉系高校から福祉系大学への接続教育を中心とした社会福祉教育におけるキャリア形成の新たな示唆を得るとともに、その支援のあり方に関する提言を行うこととする。

研究の視点と方法

1 キャリア形成概念の検討

米国では、1970年に米連邦教育局 Marland 長官が、「初等・中等・高等・成人教育の諸段階で、それぞれの発達段階に応じ、キャリアを選択し、その後の生活の中で進歩するように準備する組織的、総合的教育」を「キャリア教育」(Career Education)と定義した。Schein (1973) は、職業選択の概念を「自覚された才能と動機と価値の型」として 自律、創造性、技術的・職業的能力、雇用保障と安定性、管理者の地位の5つに類型化している。1974年の初等中等教育法 Section 406 (1974年キャリア教育法)では、キャリア教育を学校と社会との関係性を強めることやカウンセリング、ガイダンス、キャリア発達の機会をすべての生徒に提供すること、教育過程を雇用や社会に拡大する等とした。

また Fitzgerald (2006) は、キャリアラダー (Career Ladders) すなわち「上昇移動が可能なキャリアのハシゴ (筒井：2008)」が可能な分野としてホームヘルパーなどから准看護師へのキャリアラダーの戦略と実践例を紹介している。これらの先行研究及び政策提言からキャリア形成に関して総合的に考察すると、「自己分析・職業分析・職業適性」がその構成要素として重要であろう。「自己分析」すなわち職業に対する興味・関心や自己の適性を客観的に認識することがキャリア形成における大前提であり、仕事とのミスマッチを防ぐ上でも重要な意味を持つ。また「職業分析」、すなわち職業の特性を理解することは必須であるが、キャリア分析という枠組みでこれをとらえ直すと、キャリア分析とは単なる「仕事」「職業」への理解ではなく、広く人生や生き方と結びついた概念であると考えられる。従って、現実の社会における職業体験や現場実習が不可欠であり、そこでの様々な学びを通して、より豊かな社会観・人間観・職業観が養わ

れると考えられる。本稿では以上の観点を踏まえて、キャリア形成を「自己の適性や職業への関心を認識し、人生における職業や労働の意味と意義を、現実社会において実践・発展させる過程」と定義する。

2 研究の枠組み

本稿では、福祉系高校生及び大学生のキャリア形成の構造と過程を検討するために、福祉系高校卒業生及び福祉系大学生を対象としたインタビュー調査を行う。調査結果の分析に際しては、筆者が2007年2月に実施した福祉系高校生に対するアンケート調査（岡2007）及び2010年に実施した福祉系大学生に対するアンケート調査（岡2010）との比較検討を行い、福祉系高校から福祉系大学までの7年間にわたる社会福祉教育の枠組みの中で、キャリア形成に関する新たな知見を得ることとしたい。特に、福祉系高校生や大学生が社会福祉専門職としての自己の適性や職業への関心をどのように認識し、将来にわたる職業や労働の意味と意義を、現在を起点としてどのように現実的に実践・発展させようとしているのかに着目して考察を行いたい。

3 福祉系高校卒業生及び福祉系大学生へのインタビュー調査

前記の福祉系高校生及び大学生へのアンケート調査との比較検討をおこなうために、2010年5～7月にA・Bの2県に在住する福祉系高校卒業生および福祉系大学生（7名）を対象としたインタビュー調査を実施した。調査方法は、高校時代の進路選択、進路選択に対する高校卒業時の満足度、進路選択に対する入学直後の満足度、大学入学動機、福祉系大学を選択する際の周囲の反応（支援や反対）、入学直後のギャップなどに関する個人またはグループによる面接調査を行い当事者参加型の質的分析⁽²⁾を行った。

4 倫理的配慮

調査は対象者に研究目的と個人情報保護について文書と口頭で説明し同意を得た。回答は任意であり回答者が不利益を受けることはなく研究倫理上問題はないと判断した。

インタビュー結果と分析

検討した結果、インタビューから5つの視点が得られたのでその概要を述べる。その際に調査対象者の語り（または記述）の生の声を補足として示す。

1. 福祉系高校卒業生は高校入学時から福祉への明確な動機を持っている

- (1) 入学時から「介護福祉士の資格を取って福祉分野へ就職する」という将来像を描いている

福祉に興味を持ち始めたきっかけは、祖父が倒れて病院で看護師の方が介護されている姿を見たからである。また、同じ時期（中学3年生の頃）に障害者施設のボランティア体験というポスターが学校に貼られていた。福祉を知る良い経験だと思い参加した。障害者の方と一緒に何かの作業をするということが私にとっては楽しい出来事だった。そして高校は福祉科に決めようと思った。入学してからは、普通教科の授業や宿題、福祉教科の授業やレポート等、結構忙しい日々だった。高校1年生の頃は、福祉の資格を取ってすぐに働こうと思っていた。なぜなら、大学に進むとなるとお金がかかるからである。だから忙しくて大変でも今の時期を頑張っていこうと思っていた。

当初は高校福祉科で専門的教育を受け、技術を身に付けた後、介護現場に就職するつもりであった。

私は、福祉科の存在する高校に進学することを小学校5年生の時から決めていた。それは、小学校の特別授業で、特別養護老人ホームにボランティアに行ったことがきっかけであった。そして、高校に入学すると介護福祉士を取得するために、様々な授業を受けて充実した学校生活を送ることができた。

高校入学当初は介護福祉士を取得して福祉就職することを第一目標としていた。

2. 福祉系高校での授業や実習を通して視野の広がりを経験する

(1) 福祉現場の労働条件の低さ・厳しさへの認識から福祉就職を敬遠する

「一般進学」を考えなかった理由としては、高校時代から福祉について学んでいるので、それを職業に活かしたいと思ったからである。そして、福祉就職から進路がぶれなかったのは（進路を福祉進学に変更したのは：筆者補記）、現場について知っていくうちに、介護福祉士の役割の限界を感じたからである。高齢者を介護することは高齢社会においては重要な役割であるといえる。しかし、日々の介護を作業のようにこなしていくだけではいけないと感じるようになった。充実した日々を送っている介護福祉士の方々も大勢いるが、「介護」をしているだけというイメージが強くなっていた。また、介護福祉士自体が障害を負った時、働くことができなくなる。男女平等、ジェンダーフリーといわれる時代だからこそ、夫婦両方での収入が不可欠だと思う。したがって、何らかの障害を負った時、働けなくなる職業を敬遠するようになった。

高校2年生では実際の現場で実習する勉強が増えて、現実を知った。重労働な割に資格を持っていても給料が少ないこと、夜勤もあるので自分の健康管理が難しくなること、自分の体力が持たないこと（腕や腰に負担がかかる）、排泄への抵抗感、死をあまり見たくないと感じたこと等が挙げられる。そういった中で私は、将来福祉の仕事一本でやっていけるのかとても不安になった。

(2) 福祉関係の職種は介護だけではないことを知る

福祉の学習を進める中で様々な職種があることを知り、今自分が学んでいることを教える職に就きたいと思うようになった。

(3) 福祉の学習を通してさらに進学して専門的に学びたいという意欲が芽生える

高校生活の3年間だけでなく、もっと福祉の勉強をしたいと思うようになった。福祉進学を決めた時の気持ちとして、常に先を見通していた。介護福祉士取得がゴールじゃなくて、先に先に……とゴールを掲げていた。そして自分が本当にしたいこと、学びたいことは何かを見つめなおし福祉進学への意志を固めた。

3. モデルとの出会いが進路を方向づける

(1) 社会福祉士・ケースワーカー

小学校の頃に市役所福祉課でお世話になったケースワーカーの方が、たまたま今在籍しているA大学出身者であった。家庭と学校生活のトラブルやいざこざでかなり精神的疲労がたまっていた私は、そのケースワーカーに相当お世話になった。悩みを聞いてもらいに市役所へ出向くだけでなく、ケースワーカーの方にわざわざ家に訪問していただき、自分の心境を打ち明けていた。悩みを打ち明けているうちにその方に対して強い尊敬と憧れを抱くようになり、その頃から私は社会福祉士を目指すようになった。

(2) 教員

また、担任の先生の影響もある。担任の先生は、看護師、養護教諭の経験をされた先生であった。その先生からの学びの中で、「私は介護福祉士を持った教師になりたい」と思うようになった。

A大学で福祉科の教員免許が取れると聞いたのもきっかけの一つだ。それは、恩師の教えている姿や、生徒と関わってその生徒が笑顔になる姿を見て、自分自身も、非常にあこがれの存在となっていた。その先生が卒業し教員免許をとった大学に行ってみたい。こうも思った。

4. 支援者の後押しをうけて進路を決定する

(1) 担任・教員

担任の先生が2年生から3年生でも同じであったので、私の進路については様々な支援をしていただいた。オープンキャンパスの紹介や推薦についての情報提供、小論文の添削などでサポートしていただいた。

そんな中、担任教師との出会いで転機が訪れた。高校1、2年時、私は不登校になった時期があった。持病として幼少から抱えている、脱毛症のコンプレックスが原因で、人との関わり合いを避けるようになったからである。最初に述べたように、入学当初は人との関わり合いを好んでいたのだが、親密な関係になればなるほど嫌われるのが怖くなっていき、自分から遠ざかってしまった。当時、私は脱毛症を気にしていたので、帽子を被って学校へ登校していた。今思えばそれは、自分を隠し、周り自分との境界線を作ってしまうように思う。その時に出会ったのが、高校2年時の担任教師である。彼は、私のように脱毛症を持っている人で、それを隠そうとはせず、堂々と生活していた。また、その生き方

を私に諭し、帽子という境界線を越える勇気を与えてくれた。また、高校1年時の担任教師は、私が2年生に進級した後も、私の身を案じ何度も相談に乗ってくれた。そんな担任教師たちの手厚い指導のかけがあり、私は被っていた帽子をとり学校に復帰することができた。同時にそれは、私に教師への憧れを与えた。

(2) 家族

両親は、基本的に私の意見を尊重していたが、私が困った時・悩んでいる時・迷っている時に相談すれば、両親の意見を聞かせてくれて、それが精神的安定に繋がったり解決したりする場合もあった。

(3) 友人

友人とは進路について話す機会はあまりなかった。福祉科では多くの者が就職を希望していたので、進学の私と進路について話す者は少なかった。また、進学を目指している者もいたが、指定校推薦の枠は決まっているので、推薦が決まるまでは「敵」という認識すらあった。

5. 逆に周囲から進路希望を反対されることもある

(1) 偏差値・学力レベル

そしてそのA大学に進学するために小学校の頃からパンフレット等の大学の情報を集めるようになっていった。高校の頃は、三年間その強い気持ちが消えることは当然あるはずもなく、高校二年の頃から受験勉強に没頭するようになる。次第に偏差値が上がり、親がもっと上のランクの大学や国公立を狙うように勤めるようになったが、私のA大学への気持ちは変わらなかった。センター試験で理数を失敗してしまったため国公立へ行くことはできなかったが私立有名大学であるB大学やC大学には合格したため、親は偏差値が上のB大学やC大学への入学を強く勧めたが自分の意思は変わらずA大学への入学に至る。

大多数の教師や家族はA大学への入学を強く否定した。「学力レベルと違う、もっと上を目指すべき」など言われた。A大学への強い願望を持っていた私もさすがに多数の大人からそのように言われて、気持ちが少し揺らいだときもあった。そんな中で高校三年生の頃、ある教師から「自分の本当に行きたい大学へ行け」と言われた。その教師は社会福祉士の資格も持っておられた方で今は盲学校へ転勤されているが、当時本当にその言葉に救われた。その教師がいなかったら今の私はいなかっただろう。

(2) 資格が高度で指定大学院卒業後も就職率が厳しい

工業系高校出身の学生はものづくりから人との関わりのもてる対人援助職に視野を広げていくが教員の反対で断念する。

高校入学当初、私は工業系の仕事に就職することを考えていた。しかし、工業の学習を通して行く中で、人との関わりに重要性を感じたことである。ものづくりとは、仲間同士の協力があって初めて実現するものであり、同じように私も仲間との協力で、ものづくりを行っていた。そこから得られた仲間との関係がとても尊いものに感じ、人との深い関わりを持つことを好むようになり、いつしか、直接に人と関わることでできる仕事に就きたいと思うようになった。インターネット検索などを用いて、人との関わり合いを持てる、自分に合ったいい職業がないか探していると、臨床心理士という単語が目にとまった。臨床心理士を調べて行くと、資格試験が難しく指定大学院を卒業しなければいけないことが分かり、就職率もとても厳しいことが分かった。しかし私はその難しそうな所や人の悩みを聴き、人を救うことにやりがいを感じ、臨床心理士になり、人の悩みを聴く立場から人と関わっていかうと決意した。しかし、そのことを進路指導部の教師に相談すると、一言で「やめなさい」と言われた。資格を取得しても就職が難しく、大学院を卒業しなければいけないデメリットを考えて、言われたことであった。私は一度決意したことを否定され、しばらく進路を考えることをやめてしまった。

福祉就職希望から福祉進学希望への変更

福祉系高校生のアンケート調査の自由記述部分に関して、本稿のインタビュー調査と関連のある部分の分析を行った。エクセルデータを SPSS テキストアナライシスによって解析した結果、言語学的に抽出されたキーワードのベスト 3 は、「思う：35」「自分：20」「学ぶ：19」であった。このうち「思う」は「意思」を、「自分」は「主体」を、「学ぶ」は学校の授業や経験からの学びを表していると解釈される。また、カテゴリーのベスト 3 は、「実習：34」「福祉：19」「進路：15」であった。「実習」は「実習体験」や「実習を通して」などの形で使われており、「福祉」は「福祉を勉強」「福祉系高校」などの語句として用いられている。一方「進路」は、実際の記述の中では「実習：16」と結びついて使われており、実習経験と進路選択との関連が重要であると高校生自身が考えていることが浮き彫りになったといえよう。さらに、テキストデータを詳細に読み込むことによって、3 年間の在籍中に何度進路希望を変更したのかによる差異も検討できると思われる。今後の課題としたい。

結論と課題

福祉系高校卒業生及び福祉系大学生に対するインタビュー調査の結果、高校時代の進路選択に関して、福祉系高校生の進路希望は比較的变化が少ない結果が示された。これは、高校入学時から既に約 8 割の生徒が明確な目的（福祉の資格・進路・勉強）を持っている（岡 2007）ことと関係していると推察される。また、高校卒業時の進路選択に対する満足度は全体的に高い傾向にあるが（岡 2010）、大学入学直後の満足度は低下する者が少なくない。この点に関する精緻な分析は今後の課題である。また、大学入学動機に関しても明確な動機を持つ傾向が示された。進路を選択する際の周囲の反応（支援や反対）は、極めて個別性が高く本稿のデータ数（7 名）では普遍化することは困難である。従って今後、さらに調査を継続することによって、福祉系高校生

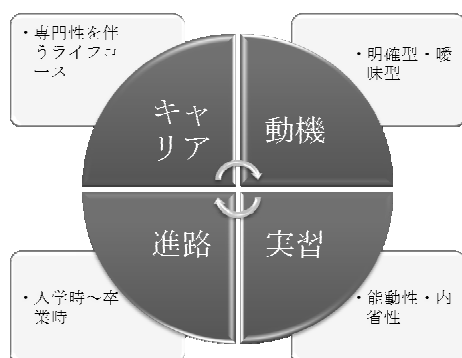


図1 福祉系高校生及び福祉系大学生のキャリア形成

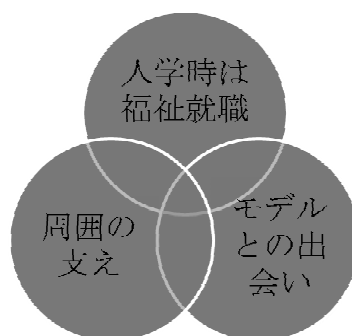


図2 福祉系高校生が福祉進学するパターン

を取り巻く支援のネットワークとしての教員・家族・友人、さらには実習施設職員や地域社会の人々など複層的で多様なサポートシステムを構築することが求められているといえよう。以上のような点を踏まえて、福祉系高校生及び大学生のキャリア形成に関する概念図を図1に示した。

福祉系高校生は、8割以上が明確な動機を持って入学してくる。そのため、実習に対しても能動的かつ内省的な態度で取り組む。能動性は職業や労働環境に対する吟味も含まれると考えられるが、一方、内省性は自己の専門的知識や技術の未熟さへの反省や福祉分野における職業適性への見極めなども含まれると考えられる。さらに、3年間を通じて繰り返し、進路希望を検討する過程がみられる。そのようなプロセスを連続性を持って循環させながら、専門性を伴うライフコースとしてのキャリアを形成していくのではないだろうか。

福祉系高校生やが福祉系大学への福祉進学を行う際には図2に示したような典型的なパターンが見出された。多くの福祉系高校生が入学時には福祉就職を希望している。そのためには介護福祉士国家資格等の資格を取得する意欲も高い。そのような熱意ある生徒たちは福祉の授業や現場での実習を経験しながら、モデルとの出会いや周囲からの助言や支援を得て、福祉の広い視野に気がついていく。しかし、周囲のクラスメイトは大半が福祉就職や専門学校への進学のことも多く、孤独な受験勉強を重ねることもある。そのようなときに教師や家族だけでなく、クラスメイトや友人からの励ましの言葉が支えになることもある。このように、福祉系高校生や福祉系大学生の多くが、人とかかわりの中で進路選択を行っており、他者（周囲の教員や家族、友人等）の反応によって自己を洞察したり理解したりすることが考えられる。今後のキャリア形成支援に際しても、教員や家族、友人のサポートネットワークシステムの構築を行うことが重要であり、さらに、集団の中での学びあいや支え合いが、卒業後の人生におけるネットワーク資源ともなることを予想した対応が必要となってくるのではないだろうか。

注

- (1) 1987 年「社会福祉士及び介護福祉士法」の介護福祉士養成ルートに福祉系高校が位置づけられ、中等教育における職業教育としての高等学校福祉教育が開始され、2003 年度に文部科学省学習指導要領に教科「福祉」が創設されて福祉系大学を中心とした高校福祉科教員養成も開始された。本稿では以上の経過を踏まえて、高等学校の福祉に関する学科・コースの総称を福祉系高校とする。
- (2) 面接調査の結果を当事者に示して、グループ討議や検討を行うという形式の当事者参加型研究会を複数回実施し、最終的に筆者らがまとめを行った。
- (3) 高校入学動機：1 福祉の資格 2 福祉の進路 3 福祉の勉強 4 周囲の勧め 5 普通科が嫌 6 何となく 7 その他
- (4) 進路希望推移の内容：1 福祉就職 2 福祉進学 3 一般就職 4 一般進学 5 未定など
- (5) 大学入学動機：1 福祉の資格 2 福祉の進路 3 福祉の勉強 4 周囲の勧め 5 他学部が嫌 6 何となく 7 その他
- (6) 満足度：5 大変満足 4 やや満足 3 どちらともいえない 2 あまり満足でない 1 全く満足でない

文献

厚生労働省 (2006) 社会保障審議会福祉部会資料

文部科学省 (2006) 『福祉系高校における介護福祉士の養成について』委員等提出資料 1-1 社会保障審議会

本田由紀 (2005) 『若者と仕事「学校経由の就業」を超えて』東京大学出版会

乾彰夫 (2002) 「2 福祉国家体制と若者の自立を支える枠組み」『揺らぐ 学校から仕事へ 労働市場の変容と 10 代』, 268-282.

田村真広・保正友子編著 (2008) 『高校福祉科卒業生のライフコース 持続する福祉マインドとキャリア発達』ミネルヴァ書房

萩原明子・名川勝 (2008) 「福祉科高校生の高齢者イメージに与える社会福祉現場の効果」『社会福祉学』49 (1), 98-110.

保住芳美 (2002) 「高校福祉科の介護福祉士の位置」『川崎医療福祉学会誌』12 (2), 209-217.

大橋謙策 (2005) 「高校福祉科教員養成における教育課題」『日本社会事業大学社会事業研究所年報』41, 175-184.

矢幅清司 (2000) 「高等学校福祉科の教員養成のあり方 教科「福祉」と教員免許について」『社会福祉研究』79, 13-20.

Schein, H. Edgar (1978) Career Dynamics: Matching Individual and Organizational Needs, Addison-Wesley Publishing Company.

Fitzgerald, Joan (2006) Moving up in the New Economy: Career Ladders for U. S. Workers, Cornell University Press. (= 2008, 筒井美紀・阿部真大・居郷至伸訳 『キャリアラダ とは何か アメリカにおける地域と企業の戦略転換』 勁草書房.)

岡多枝子 (2007) 「福祉系高校における生徒の入学動機と進路決定：動機の差異に応じた支援のあり方」『日本福祉教育・ボランティア学習学会年報』12, 192-208.

原田正樹 (2009) 『共に生きること 共に学びあうこと 福祉教育が大切にしてきたメッセージ』大学図書出版.

福山重一 (1953) 「学としての職業指導」『日本教育学会大会発表要旨集録』, 93.

片山善博 (2007) 『差異と承認 共生理念の構築を目指して』創風社

西田泰和 (1981) 「職業選択能力研究 中学校、高等学校生徒の学年進行に伴う職業選択の変更「転移」と維持(深化)に関する縦断的研究」『芦屋大学論叢』, 7-9.

岡多枝子 (2010) 「高校時代の進路選択とキャリア形成 福祉系高校から福祉系大学への接続」『日本福祉大学教職課程年報 2009 第 8 号』, 35-43.

大橋謙策 (2001) 「高校における福祉教育の位置と高校福祉科」『福祉科指導法入門』中央法規出版 10-36.
 佐藤完 (2010) 「V 高校生の視点による介護計画の実践報告」澤田健次郎監修 村上尚三郎・間哲朗編著
 『福祉・教育を考える ささやかな提言』, 126-141.

Super, D. E (1957) The Psychology of Careers: An Introduction to Vocational Development, Harper & Brothers. (= 1960, 日本職業指導学会共訳『職業生活の心理学 職業経歴と職業的発達』誠心書房).

表1 インタビュー対象者一覧

事 例	A さん	B さん	C さん	D さん	E さん	F さん	G さん
年 齢	21	19	19	19	19	18	22
性 別	男性	女性	男性	男性	男性	男性	女性
出身高校	福祉系高校	福祉系高校	福祉系高校	普通科高校	高校国際 コース	工業系高校	福祉系高校
高校 入学動機 ⁽³⁾	1・2・3・5	1・2・5	1・2・3・4	1・2・3	3・5	4・5	1・5・6
高校時代 の進路 希望推移 ⁽⁴⁾	1・2・2 ・2・2・2	1・2・2 ・2・2・2	1・2・2 ・2・2・2	2・2・2 ・2・2・2	2・2・2 ・2・2・2	3・4・5 ・4・2・2	3・3・2 ・2・2・3
大学 (在籍中 または 卒業)	福祉系大学 社会福祉 学部	福祉系大学 社会福祉 学部	福祉系大学 社会福祉 学部	福祉系大学 社会福祉 学部	福祉系大学 社会福祉 学部	福祉系大学 社会福祉 学部	短期大学 情報学科
大学 入学動機 ⁽⁵⁾	1・2・3	1・3	1・3	1・3	1・2・3	1・2・3	4
満 足 度 ⁽⁶⁾	高校卒業時： 4	高校卒業時： 5	高校卒業時： 5	高校卒業時： 5	高校卒業時： 4	高校卒業時： 5	高校卒業時： 4
	大学入学直後： 5	大学入学直後： 2	大学入学直後： 4	大学入学直後： 2	大学入学直後： 5	大学入学直後： 1	大学入学直後： 2
	現在： 5	現在： 4	現在： 4	現在： 5	現在： 5	現在： 4	現在： 4

表2 福祉系高校生の自由記述（入学時に福祉就職で卒業時に福祉進学）

番号	実習と進路選択の関係に関する自由記述
42	福祉を勉強している高校生は資格取得など、自分で明確な目標を持っていて、進路も早いうちに決まるので良いと思う。福祉に関する知識や専門技術を早くから身に付けることが可能なので素晴らしいと思う。実習も現場の雰囲気に触れられるのでとても良い体験ができた。
186	実習をやって、私は施設で働くのは無理だと思いました。でも、在宅介護支援センターで実習をした際に自分のやりたいことがはっきりしました。介護をするだけが福祉じゃないと知り新たな方向性を見つけられました。なので、実習体験は施設にとどまらず色々な所に行って実習をさせて頂けたら、福祉の視野が広がると思います。
203	実習を経験して、心の面でのケアに興味を持ったので大学で学びを深めようと思った。施設のケアに疑問を感じたので、就職することに抵抗がある。
219	私は将来、福祉系就職を考えていましたが、後からは福祉系進学に進みたいと思うようになり

	ました。実習を行ってみて、どちらの場合でも自分の進路に役立ったと思います。そして、就職にしても進学にしても人と関わる仕事なので、利用者の方と関わって、自分の“人と付き合うことが苦手だ”という部分が少し解消されました。
332	僕は実習で色々な障害をもっている利用者の方がたくさんおられました。そして、その中には医療的なケアが必要であると思われる方がたくさんいらしたので、その人達の役に立ちたいと思い、看護師になりたいと実習を終えてそう思いました。施設はとても厳しかったですがとても自分にとって役に立てるようなことばかりでした。ですのでこの体験で進路選択にとっても役立ちました。
365	学校内で学ぶこと、実習（大人の社会）で学ぶ事は全く違う。学校で学べないことを実習という短時間で学んだものは大きかったです。ただ単に「この仕事がしたい」「この資格を取りたい」と言っただけで、実習後は「この資格を取ってこんな風に人の役に立ちたい」と具体的な目標や夢をつかめました。高校3年間、いろいろ学んで良かったです。でもそれでも足りないから進学を決めました。きっと普通科から福祉大に進学しても足りないと思います。
639	福祉系高校における実習は大変、貴重で有意義なものでした。実習を通して、現場、地域社会について学び知り得たことは、これからの人生においても大切にしていきたいと思えるものです。通常授業と専門科目の両方を同時に学ぶのは大変だったけれども、楽しくて充実したものでした。私は医療・福祉系に進学しますが、それも実習を通して、自分に足りないもの、必要とされているものを知り、それを自分の身につけ、社会に貢献したいと思ったからです。私は福祉系高校で夢を叶えようとしており、また新たな夢も得ることができました。福祉系高校に進学してよかったと心から思っています。
670	実習に行く前まではやく介護福祉士を取得して高校卒業してすぐに就職したかった。しかし、実習で自分の未熟さを知るとともに進学してもっと専門的に学びたいと思った。介護福祉士だけでなく他の職種との連携もあったのでたくさんの福祉系の職業にも興味を持てた。
706	若い頃から、施設実習ができることはとても良い人生経験だと思う。高齢者虐待が増加している今、学生の頃から利用者とふれあい、利用者に対して優しい気持ちを持てる心を育てることは大切だと思う。私は、施設実習でその施設の職員さんに大切な事を学んだ。だから私も、その職員さんと同じ仕事に就きたいと思って、進路を決定した。
886	イメージしていた福祉とは少し違った。だけどイメージが変わってから、もっと福祉に興味を持ち、いろんな福祉の知識を学びたいという欲ができました。自分が高齢者の方と接していて、これほど自分に合う、生きがいのある仕事だと思えたことがきっかけで、進学を希望し、福祉の知識を増やそうと思いました。
976	老人ホームに実習に行って自分の未熟さを知り、もっとたくさん練習して次の実習に生かそうと思った。そして2回の老人ホームの実習を通して、もっと多くの福祉を学んでいきたいと思った。そして将来は社会福祉士として、地域の福祉に関わっていきたいと思っている。
1463	3年間の勉強や実習の中で音楽療法士という職種がある事を知り、興味を持つようになりました。音楽がもたらす人へのいやしの効果や身体的な面での効果について深く学びたいと思うようになり、音楽療法を学ぶことができる学校へ進学しようと思いました。
1541	実習に行った事で老人だけでなく、児童、障害者も学びたいと思ったし、人の役に立ちたいという考えが高まりました。
1546	2年生の最初の実習に行く前までは、福祉施設での就職を考えていました。しかし実習に行き、自分の技術の未熟さを実感し、又色々な御利用者や職員さんとの出会いの中で、介護福祉士だけでなく、他の資格を取得したい、そう思い、進路を進学に変更しました。医療の分野の進学なので、福祉にも関係してくる部分もあるので将来、今まで勉強したことを生かし、いつかまた介護福祉士という素晴らしい就業につきたいと思いました。

1554	<p>実習に行く前は、ずっと就職希望でしたが、3年生の最後の実習で、就職希望から進学希望になりました。その理由は、私は、ピアノが大好きで、お年寄りのレクリエーションなどで、少しでもリラックスしてもらえるように、又、昔の曲などで楽しんでもらいたいという気持ちがあって、音楽療法や保育士になりたいと思うようになりました。あと一つの理由は、まだ全然、知識がないので、もう少し勉強が必要と思い福祉系大学の進学に決めました。</p>
1601	<p>実習で、実際に体験することにより、自分がこの仕事に向いているかいないかの実感がわく。そして、向いてなかったにしろ、そこで出会った他の専門職に興味もわくし、そっちに行きたいと思うことができるので、進路選択ととても大事な関係だと思う。</p>
1606	<p>私は実習を通して、リハビリに関心をもてたと思う。進路を選択するにあたって、やっぱり私は、人の役に立ちたいというのがあったので、福祉の仕事も医療の仕事も私にとって、とても魅力的で、とてもすてきな仕事だと思う。実習はつらいこともたくさんあったけど、その分うれしいこともたくさんあって、本当に充実したものだと思った。ここの高校で、福祉について学んだから、この進路を選んだのだと思う。</p>
1625	<p>福祉高校での実習体験により、私の目指している夢である仕事ができ非常に勉強になりました。初めは就職の予定だったけどこの3年間のお陰で福祉についてもっと知りたいと思うようになりました。4年後は今以上に福祉のスペシャリストになっておきます。将来、福祉系の大学にいけるなんて思ってたんですけど、このN高校のお陰で最高の目標を手に入れることができました。</p>
1853	<p>実習に行って高齢者の手伝いだけでなく、もっといろんな人達の病気・ケガなどの治療がしたいと思い進学しました。</p>
1859	<p>実習体験で福祉の現場の厳しさを知り、自分の知識や技術がどれほどかを知ります。私は、実習体験をしてそういう事を知り感じました。進路選択は、実際に実習に行き、自分はもっと卒業したら福祉系の大学、専門学校に進学して福祉を幅広く学びたいと思ったり、実習で利用者の方と触れ合う事で、卒業したら施設に就職したいと思ったりして、実習体験を通して自分の進む道が見えて進路選択につながって行くんじゃないかなあと私は思いました。大学に進むので頑張りたいと思います。</p>
1906	<p>入学したときから3年生になる前までは進学する気は全くなく就職する気でいましたが、ちゃんと進路を考えていたら、今は就職をするのではなく、進学して福祉についてもっと深く知りたいと思い、進学に決めました。これも、実習を通して側面的に利用者を支援する方々を知ったからだと思います。</p>
1915	<p>3年生最後の実習で言語に少し障害がある方と接した事がきっかけで、進路を決めました。2年生、3年生と実習を体験し、福祉の仕事が向いているかや関連する職種に興味は沸く等があるので、技術を習得するとともに、素晴らしい体験だと思います。</p>
2050	<p>自分は、最初から就職をしたかったのですが、実習体験をしてもっと高い技術を学んでからしてもいいのではと思い進学に変えましたが、そういった事を気づかせてくれるのではないかと思います。</p>
2333	<p>私は最初、福祉の現場につこうと思っていましたが、3年間施設実習を通して私は体力に自信がなかったです。でも、人の役にたちたいと思うので、人の役に立てる仕事につきたいと思うので福祉系の学校に行って、私に足りない点を学んできたいと思うようになったので、福祉系の進学に進んで頑張ります。</p>
2799	<p>実習体験においては、“介護福祉士”として働くことに対する喜びややりがいを感じることができたと思う。しかしその反面、現場での厳しさや、利用者の多様なニーズ、状態への対応の重要性も知った。今後、将来働いていくうえで、1つの資格のみならず、多様な面から利用者を理解できるよう、更に、福祉に関する勉強をしようと思い、高校卒業後は進学を希望した。</p>

3124	最初は就職だったが、福祉について学び、実習などをしていく内に「福祉」に関する職種がたくさん知ることができ、進学して他の福祉職の資格も欲しいと思うようになった。でも、実習をするからこそ基本ができると思うし、進路選択について考えられると思う。
3393	在宅、施設実習に行くと今まであやふやだったのが、実際にふれて確かめることができ、自分に合っているかどうかを判断するのにとても役立ったと思う。施設に行くと、看護師や理学療法士の方と話しをすることができ、介護福祉士だけでなく、さまざまな資格があるのだと思い、現場で働くのか、事務所などが良いのか知ることができた。
3605	2年、3年と実習に行ったりして、高齢者ばかりでなく、もっといろいろな分野の福祉について学びたいと思い、大学の社会福祉科に進学することを決心しました。
3844	福祉に興味を持って福祉系高校に入ったから、実習を通して改めて自分が福祉関係に向いているのか、再確認できたから実習は良かったと思います。実習は知識、技術の習得だけでなく、どの職場にも関係する人間関係が学べます！実習は、体力的にも精神的にも大変だけれど、それに勝るものが得られる良い機会です。
3845	デイサービスの存在を知ってから、私は福祉に興味を持ちはじめ、将来の夢になりました。最初は漠然と福祉＝高齢者という考えをもっていました。将来や実習を通して、たくさんの福祉を知りました。特に実習は、その現場に自ら足をふみ入れ、その雰囲気を感じることができ、私の中の福祉を大きく変化させました。人と関わることで自分の世界が広がって、もっと力をつけたいと思ったのでよかったです。
3853	福祉系高校に入学し、施設での実習もあり、想像した以上に過酷な体験も多く、自分は福祉に向いていないのかなと思い、介護の専門の学校に進学するのはやめました。先生からは「向いているので頑張ってください」と言われた事もあったけど、立ち向かう勇気がなく別の道へと決めました。福祉のど真ん中の道は諦めたけど、本校で、人と関わる大切さ、楽しさ、感動に気づき、何らかの形で人と関わりたいと思ったので、福祉系進学を選択しました。本校での3年間でなければ、この選択はなかったと思います。
3856	教科書だけでは分からない、人とのつながりや、1人1人違う個性。実習現場では勉強だけでは分からない色々な事を学びました。「楽しい」「人の役に立つ」だけではなく、辛く、厳しい所も見れて、将来と照らし合わせることができると思います。技術や知識も未熟で、職員さんたちから見たら、子どもにしか映っていないと思う。でも、がむしゃらだったけど、必死に実習した経験は、今の自分に対しても、未来の自分に対しても、絶対にプラスになっていくと思います。
3870	将来自分が就きたいと思っている場所へ実習に行くことができたけど、実際に見て、一緒に働いてみると、普段全然知ることのできないような現場が見えてきて、その中で経験できるというのはとっても良いし、そこからさらに自分に本当に向いているか向いていないかが見えてきて知ることができるのでとても良いし、実習体験と進路選択との関係はとても深いし、重要な事だと思いました。たくさん経験するほど良いと思います。
4076	私は福祉についての知識は入学前は全くと言っていいほどなかったけれど、夢があったので入学しました。けれど入学して、福祉について学び、実習で体験をしているうちに、福祉の深さを知り、入学前のあまい考えは全て消されました。そして、福祉を身近で感じていたからこそ、今自分にできること、したいことを考えることができ、学校での生活の一日一日が私の進路へつなげてくれたのだと思います。
4090	高校生のうちから福祉について学びとても良いと思う。障害者や、認知症高齢者への見方が変わり、その実習の体験を通じて自分の進路を決めることになる。私も初めは福祉系の就職を考えていたが、3年生の実習でもっと福祉について学びたいと思うようになりました。